

中田英寿のメディア戦略の研究

A study of Media Strategy of Nakata Hidetoshi

1K04B001-6

青木 理美

指導教員

主査 リー・トンプソン先生

副査 磯繁雄先生

目的

本研究は、中田英寿のメディア戦略をおおっていくものであり、マスメディアが描く中田とそれに対立する中田英寿独自のメディアが描く中田という2つに着眼して、メディアを利用して中田はどのように情報を発信して自分自身を世の中に広めていったのか明らかにしていくものである。そしてその結果、中田は受信者である大衆に何を伝えたのかなどを読み取っていくことが目的である。中田英寿という選手は自らのメディアで情報を発信している。そして、その中で心中を表し、サッカー選手としての活躍を見せることで人々にスポーツヒーローという認識を与えるのである。このように日本のスポーツアスリートでは異色の中田を卒業論文のテーマにしようと決め、中田のメディア戦略に注目しようと考えたのである。

方法

中田のメディアでは中田が絶大なリーダーシップを発揮しており啓蒙者のように人々を導くようなイメージが伺える。マスコミ嫌いで有名な中田であるが、裏を返せばマスコミを上手く利用してひとつひとつの目的を達成してきたのである。それはどんなに中田のメディアが絶大な支持を得ようとマスメディアの報道がなければ二項対立になるまでのレベルの達しないからである。中田自身の人気もマスコミの報道が一役を担っているのだ。そこで本研究では、マスメディアと中田のメディア、この二項対立するメディアが描く中田を追って行き、中田の過去から現在に至るメディア戦略とその意図を考察していく。はじめに中田英寿のサッカー歴や数多くのビジネスに携わるそのサッカー以外の活動歴を明らかにしていく。そして日本のメディアのスポーツ報道、中田自身のメディア操作を明らかにする。その結果、マスメディアまでを操作する中田のメディアに対する姿勢やスタンスを明らかにして情報の受けてである大衆にどのようなことを伝えたいのかを明らかにしていきたい。

結果

商業的な相互利益の為に生まれたスポーツメディ

アの中で、スポーツ報道もまたメディアのスポーツ報道は客観的に真実を伝えるというよりかは、珍しさや面白さをそそるようなスキャンダルリズムに偏った報道が多い。中田もマスメディアの過熱報道の被害を受けたスポーツ選手である。そして、中田は大衆にメディアの情報操作の危険性を警告し、人々もマスメディアに対して疑いの目を向けるようになったのである。情報を鵜呑みにする多くの日本人、これを危惧して、中田は人々にメディアリテラシーを呼びかけたのである。メディアリテラシーとは、メディアの特性や利用方法を理解し、適切な手段で自分の考えを他者に伝達し、あるいは、メディアを流れる情報を取捨選択して活用する能力のことである。中田は自身のホームページを開設した。マスメディアに操作された情報ではなく、自分の意思で伝えたい情報を発信するためである。マスメディアと自分のメディアとの情報のギャップを伝えて、人々がいかにマスメディアの情報を信じ込んでいるのかを明らかにさせている。そしてメディアリテラシーの概念のもと、情報入手の重要性やマスメディアに依存した日本とどう向き合っていくのかを自分の活動を通じて人々に伝えているのである。

考察

日本はメディアとともに成り立つ社会環境である。そして、メディアの知識もないまま人々の中では先入観などが生まれ、思考や行動に影響が及びだす。この状況から脱却するために教育機関でメディア教育を行い、メディアはメディア自体で、メディアリテラシーのあり方を知らせなければならないと考える。内部告発のようになるかもしれないが、いかに人々が自分たちの情報を鵜呑みにしてしまっているかを考えたら、メディアリテラシーを呼びかけることが責務であろう。中田英寿は現在、世界中を旅している。それはサッカーを軸としたビジネスを行うためでもあるのだが、日本で生まれ育った彼はマスメディアに与えられた情報の世界と自分で直接肌で感じる世界とでいかに違うかを経験するためでもあるという。そして、いかに日本人は作られた世界を信じているのかを自身のホームページで人々に訴えているのである。